

**製品名:** アセチルリジン(10B10)マウスモノクローナル抗体

**カタログ番号:** AMM04164

研究使用のみ

## 概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF,IP
反応性	種に依存しない
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、pH 7.4、0.5% 保護タンパク質、防腐剤として 0.02% 新型防腐剤 N、50% グリセロールを含有。
精製	アフィニティー精製

## 応用

**希釈倍率** WB 1:1000-1:2000,IHC 1:200-1:500,ICC/IF 1:50-1:200,IP 1:100-1:200

**分子量**

## 抗原情報

**遺伝子名**

**別名**

**遺伝子 ID**

**SwissProt ID**

**免疫原** 精製タンパク質

## 背景

リジンのアセチル化は、セリン、スレオニン、チロシンのリン酸化と同様に、タンパク質の活性を制御する重要な可逆的修飾です。 4

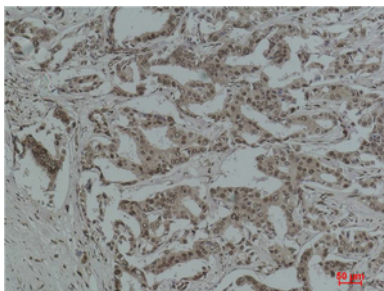
つのコアヒストン (H2A、H2B、H3、H4) の保存されたアミノ末端ドメインには、ヒストンアセチルトランスフェラーゼ (HAT) によってアセチル化され、ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) によって脱アセチル化されるリジンが含まれています。ヒストン、転写因子、その他のタンパク質のアセチル化/脱アセチル化をもたらすシグナル伝達は、クロマチン構造や遺伝子活性、細胞増殖、分化、アポトーシスなど、多様な細胞プロセスに影響を及ぼします。最近のプロテオーム研究では、リジン残基のアセチル化は、細胞周期や代謝、寿命、アクチン重合、核輸送の制御に関与する数千ものタンパク質に影響を与える、広く普及している重要な翻訳後タンパク質修飾である可能性が示唆されています。がんやポリグルタミン病ではタンパク質のアセチル化状態の調節が損なわれており、HDAC は現在開発中の抗がん剤の有望なターゲットとなっています。

## 研究分野

## 画像データ



アセチルリジンモノクローナル抗体を用いて処理した 1) マウス脳組織、2) HeLa、3) HeLa+TSA のウエスタンブロット解析。



アセチルリジンモノクローナル抗体を使用したパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学分析。